

**真** 剣なまなざしで絵筆をとる子どもたち 創造力をめいっばい発散させて、一本の木を個性溢れる芸術作品へ変身させようとしているのだ。

2006年11月1〜3日、JICAとフィジー教育省共催の展示会「Art&Craft Exhibition」に出展するため、フィジー4地域32校の小学生と教員が、思い思いに絵画やオブジェなどの作品づくりに取り組んだ。「アート&クラフトの授業がこんなに楽しいなんて知らなかった」と喜ぶのは子どもだけでなく、教員も同じだ。情操教育が軽視されているフィジーでは、このように学校教育の一環として芸術が取り入れられるのは珍しい。日本とは違い、体育や音楽、図工の授業がカリキュラムに組み込まれていない学校も多く、特に、図工については、教員用のガイドブックはあるものの、高価な材料が必要なものが紹介されていて、ほとんど利用されていない。

そつした中、05年8月、シニア海外ボランティアとして教員養成学校に派遣されている松本祐子さんは、養護学校の生徒向けに図工教材集の製作を企画。新聞紙や空き箱など身

# Close Up!

ジャイカのあしあと

[フィジー]

## 子どもたちに創造する楽しさを

わき出るイメージを表現する子どもたちの顔は輝いている。そこには、作品づくりの素晴らしさを伝える日本人がいた。



近にある物を利用し、高度な技術や高い費用をかけることなく作品を作る方法を紹介する教材を作成した。さ



らに、06年3月、同国の小学校や養護学校に派遣されている青年海外協力隊員と協力して、教材集「Art&Craft Book of Creative Ideas」を完成させた。これらは同国の教育省から高く評価され、全国の小学校729校へ配布されている。そして、これを機に、皆でこの教材を使い作品を作って発表しようと、阿部飛鳥さんら7人の隊員が現地の教員に呼び掛け、今回の展示会開催が実現した。

展示会には、3日間で合わせて約2700人が足を運び、現地の複数の新聞に取り上げられた。近々テレビでも放送される予定だ。

「芸術の授業は、1+1=2ではない世界。障害児を含め、一人一人の個性が光り、互いを認め合うことができる」と言う松本さん。自ら考え創造することの楽しさを体感することで、子どもたちの豊かな心が育まれている。